

# Ikuko Miyazaki Exhibition

《〈殉教〉》, 2015  
Photography by Daisuke Aochi



## 闇に黙せず 宮崎郁子 —エゴン・シーレとともに—

2018. 2.17 [SAT] — 3.11 [SUN]

瀬戸内市立美術館4階展示室

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日：月曜日  
入館料：一般/400円、団体(20名以上)または65歳以上/300円、中学生以下無料  
主催：瀬戸内市立美術館 協力：みるを楽しむ！アートナビ岡山、Hanna(映像作家)  
後援：岡山県、岡山県教育委員会、山陽新聞社、朝日新聞岡山総局、毎日新聞岡山支局、読売新聞岡山支局、産経新聞岡山支局、R SK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、KSB瀬戸内海放送、on i ビジョンFM岡山、FMくらしき、レディオモモ、公益社団法人岡山県文化連盟、岡山県郷土文化財団

瀬戸内市立美術館  
Setouchi City Museum of Art

Ikuko Miyazaki Exhibition — 17 Feb - 11 Mar, 2018 / Setouchi City Museum Of Art

## 闇に黙せず 宮崎郁子 —エゴン・シーレとともに—

今年は、並外れた存在感を持つ20世紀初頭の画家・エゴン・シーレの没後100年にあたります。このたびは、そのエゴン・シーレの世界を人形で表現している宮崎郁子の作品をご紹介します。10歳で人形作りを始めた宮崎郁子がシーレに出会ったのは、1995年のことで、画集で、その強烈な個性に魅せられたのです。宮崎は、人形、そしてシーレについて、次のように語っています。

「……人形ほど、「私」自身を理解してくれるものはない。いつも人の傍らにひっそりと寄り添ってくれる祈りの存在でもある。／私は、エゴン・シーレ作品に初めて接したとき、これが絵画であるということさえ、まったく忘れ、私自身のように感じ、生きるのが苦しかった青春時代がよみがえってくるのを感じた。まるで「私」自身を理解してくれる人形のように。そうして、私の人形作りは始まった。……」(宮崎郁子作品集『樹の瞳』エゴン・シーレ没後100年宮崎郁子展 in Krumau プロジェクト発行、2013)  
エゴン・シーレは、1890年にウイーン近郊で生まれ、16歳の時、美術担当の教員から、その非凡な才能を認められ、最年少でウイーン美術アカデミーへ進学することになります。しかし、指導教授との対立から、18歳でアカデミー教育から離れ、独自の活動に入り、その鮮烈な表現主義的作品は、瞬く間に評判となり、斯界を席巻します。そして、第一次世界大戦への召集での戦争を体験した後、1918年、突然、スペイン風邪で亡くなったのです。まだ28歳の若さでした。

シーレが画家生活を送った20世紀初頭は、フォービズム、キュービズム、ブリュッケ、青騎士、シュプレマティスム、コンストラクティビスム、デ・スティール、未来派、抽象絵画、アール・デコ等、様々な主義、様式が闊歩した時代で、第一次世界大戦へ向かう社会不安の状況下でも、非常にエネルギーがありました。天才肌で、稀代のデッサン力を発揮したシーレの作品群は、この時代背景で生まれ、次々と時代が変わり、年月を経た現在でも、その強力な磁力で皆の心を捉えて離しません。

宮崎郁子は、シーレの平面の絵画作品を、人形として創作します。特に、シーレの最大の魅力である魔性を帯びた予測不能に延び脈づく線を立体としていかに表現するか！そこが生命線であり、また最大の見どころでしょう。材料として、石塑、アクリル、綿布、木毛、古布、発泡スチロールなど、多くの様々な材を使用して、二次元の画面を三次元の人形として、その生命を吹き込んだ作品の数々……。シーレが発した強烈なメッセージを、時空を超えた今、宮崎郁子は女性の視線でとらえ、受け止め、卓抜たる表現力で人形として完成させました。古い伝統を持つ人形の世界に一石を投じ、独自の世界を創り上げた宮崎郁子の世界をじっくりとご覧ください。

(瀬戸内市立美術館館長 岸本員臣)

3.11以後の世界にわたしたちは生きている。

それは日本という国を越える世界規模の意識をわたしたちは人類全体の危機ゆえにもつようになったことを意味している。ハプスブルク帝国の崩壊と消滅という歴史的出来事の渦中を生きた画家エゴン・シーレ(1890-1918)と、現在、日本の岡山でシーレ作品に触発され、その人形化を試みるアーティスト宮崎郁子は、その点でこそ、冷徹で透明な意識を、時空を越えて共有している。

100年の時間は、「闇」を一見、明るく脱色したように見せているかもしれない。また、そう感じたいと思っているひともし少なくない。しかし、闇は、たとえ白く明るく見えたとしても確実に存在する。

宮崎郁子の人形たちのまなざしは、その闇のなかで、けっして黙することはないだろう。深い苦しみへの共感から、未来へと希望を語らずにはおかないだろう。まだ終わっていないのだ、と。

(美術史家 水沢勉)

### 【宮崎郁子 略歴】

岡山市に生まれる 岡山市在住  
2011 岡山市文化奨励賞(芸術部門)受賞  
2013 宮崎郁子作品集『樹の瞳』出版  
2017 アーティスト・イン・レジデンス/ エゴン・シーレのアトリエ(チェコ)

### ●主な個展

1988 宮崎郁子布人形展/ ギャラリー泉堂, 岡山  
1998 エゴン・シーレをつくる/ クラフト&ギャラリー幹, 倉敷  
1999 シーレの描く女性たち/ 昔人形青山K1ドナル, 京都  
2000 エゴン・シーレ/ セ・ら〜る, 原宿  
2003 エゴン・シーレ 三次元の世界へ/ スパンアートギャラリー, 銀座  
以後、'06, '08, '12にも個展開催  
2009 岡山県天神山文化プラザ企画・天ブラセレクション/ エゴン・シーレ ぼくは死を愛し、そして生を愛す/ 天神山文化プラザ, 岡山  
2010 出不精のひとたち/ Gallery Schiele, 千倉, 千葉/'11にも個展開催  
エゴン・シーレ Blessig/ アートガーデン, 岡山  
2013 宮崎郁子作品集出版記念展『樹の瞳』/ カフェZ, 岡山  
2014 宮崎郁子の世界/ 奈義町現代美術館, 奈義  
2017 ひとがたのエゴン・シーレ/ カサヤの森現代美術館, 横須賀

### ●主なグループ展

2001 ドールフェア・A Gathering of Excellence/ Wホテル, ニューヨーク  
2010 ルドルフィヌム企画展・Decadence Now!/ ルドルフィヌム, プラハ  
2012 第九回犬島時間/ 以後3回出品/ 犬島の民家, 岡山  
2013 アリス幻想奇譚/ Bunkamuraギャラリー, 渋谷  
2014 人形偏愛主義/ Bunkamuraギャラリー, 渋谷  
2016 Doll's Show/ ストライプスペース, 六本木  
2017 永遠の幻想・美の幻影/ ストライプスペース, 六本木



《母子像》, 2016



《聖者》, 2016

Photography by Daisuke Aochi

### 【関連企画】

**毎週日曜日開催**  
時間：各回 午後2時～(約30分)  
場所：展示室  
参加費：要観覧料  
予約：不要  
宮崎郁子によるアーティストトーク。自作について語ります。

**開催日：2018年3月3日(土)**  
時間：午後5時～(約60分)  
場所：展示室  
参加費：要観覧料  
予約：要予約(連絡先：0869-34-3130)  
閉館後の展示室を特別開館。ナビゲーターによっておこなわれる、美術の知識を必要としない対話型の鑑賞会。

### 【案内図】



瀬戸内市立美術館  
Setouchi City Museum of Art

〒701-4302 岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓4911  
TEL 0869-34-3130 FAX 0869-34-3438  
URL <http://www.city.setouchi.lg.jp/~museum/>